

保育園の1日 (3歳児クラス)



11:30 給食

園児と同じ給食を食べながら、食事の様子を見守ります。給食を通して「甘いね」「おいしいね」と声をかけ合いながら、楽しく食事ができるよう配慮しています。



9:15 朝の集い・活動

子ども達がそろったら朝の集いが始まります。出席を取ったら、年齢や季節にあわせて読み聞かせや跳び箱、工作など事前に計画をしたプログラムを行います。



7:15 開園・登園・自由遊び

登園してくる子どもたちをお出迎え。機嫌や体調の変化など保護者に自宅の様子なども聞きます。その日の子どもの様子を保育士間で共有して保育に入ります。



13:00 昼寝

子どもが寝ている間もうつぶせ寝など子どもの安全に気を配ります。保護者への連絡ノートの入力や保育・行事に向けての制作物の作成や職員会議なども定期的に行っています。



15:00 おやつ・自由遊び

おやつを食べた後、みんなで帰りのうたを歌ったり、さようならのあいさつをしたりします。自由遊びから子どもの自己表現や自制心、社会性を学びます。



16:15 順次降園

保護者が子どもを迎えに来ると、園児たちのその日の様子を伝えて見送ります。園児が帰った後、明日の保育環境の準備をして帰宅します。園内研修、保育会議を行うことも。

※保育士の勤務形態は、早番・遅番などのシフト制で、労働時間を所定内におさめるようになっています。

Interview

「保育士のやりがい」

てだこ保育園 比嘉 裕太 先生(保育士歴12年)

保 育士になってよかったなと思うのは、子どもが日々成長していくのを間近で見られることです。3歳から卒園までの3年間受け持っていたクラスの子ども達が卒園するときに「ありがとう」と言ってくれた時、嬉しくて喋れないくらい泣いてしまいました。

男性保育士としての特徴を生かし、かけこやサッカーなど、体を大きく使った子どもとの遊びなど、父親的な役割のできる保育士がいることで保育の幅も広がると思います。保護者から「子どもが楽しそうに保育園の話してくれるので毎日話を聞くのが楽しみです」と言われたときはとても嬉しかったですね。



松本市長の

保育士体験

市長がてだこ保育園を訪れ、朝の出迎えからおむつ替え、一緒に体を動かして園児達とふれあいました。市長は「子どもと過ごせて楽しかったが、体力も使い保育士の大変さがわかりました。がんばれ保育士!!」と激励しました。



園児と遊ぶ松本市長



家庭×保育×地域=ハッピーキッズ

みんなで育て、みんなで育つ。



平成31年1月に市が行った子ども・子育てに関するアンケート調査では、子育てや教育に影響すると思われる環境について、「家庭」が54%と最も多く、次いで「保育園」67.2%、「地域」39.8%の順となっています。

この家庭・地域社会・保育園等施設の間で、子どもの生活は連続的に営まれており、子どもにとってより良い教育・保育環境を確保するためには、この三者が密接に関わりあっていくことが大切です。

今回は、保育園に視点をあて、子育ての主役である「親」をサポートする保育士さんの仕事や子どもと触れ合う時間を増やすために保育園が取り組んでいる事などを紹介します。

子ども・子育てに関するアンケート調査を行いました。

浦添市に在住する就学前・小学生の児童をもつ保護者の皆さんの子育てに関する生活実態やご意見・ご要望を把握し、施策の方向性の検討や、教育・保育事業の需要量の見込みを設定するうえでの参考とするために平成31年1月に調査を実施しました。

調査の結果はこちら▶



子育てや教育に影響すると思われる環境

